

DRUG

INFORMATION



2007 No. 32

平成19年11月28日発行

インフルエンザ治療薬の供給体制について

岐阜大学医学部附属病院薬剤部
医薬品情報管理室
(内線7083)

※ Drug Information は医学部・附属病院 HP の下記アドレスにて提供しています。
<http://www1.med.gifu-u.ac.jp/web/drug-info/>

電子メールによる連絡を希望される方は下記までご連絡下さい。
di8931@gifu-u.ac.jp (担当：安田)

インフルエンザ治療薬の供給体制について

インフルエンザのシーズンが近づいて参りました。インフルエンザの治療薬として 2001 年にリレンザ及びタミフルが発売されて以来、日本国内で非常に多くの患者に使用されてきました。特に、タミフルにつきましては国内でのインフルエンザ治療薬のシェアの 9 割を占めており、ほとんどの患者においてタミフルが使用される状況でした。しかし、昨年よりインフルエンザ感染患者の異常行動とタミフル服用の関連がとりざたされたことにより、今シーズンはリレンザのシェアが大きく増加することが予測されています。今シ

ーズンのインフルエンザ感染患者の予測が約 1,100～1,200 万人に対して、タミフルにおいては 600 万人分、リレンザにおいては 300 万人分が準備されるということでした。昨シーズンと比較してリレンザの供給量は 6 倍に増量されていますが、大幅にリレンザの使用患者が増加すれば、リレンザの在庫不足を来し、供給が出来なくなることが考えられます。

昨シーズンの当院から処方されたインフルエンザ治療薬は、タミフルとリレンザを合わせて約

230 件で、そのうち院内で処方されたのは約 150 件でした。これらの数字に基づいて、今シーズンのリレンザ在庫として約 200 人分を確保しました。十分な量を確保したと考えておりますが、患者数や処方動向によっては、在庫不足を来す危険性があります。薬剤部としましては、インフルエンザ治療薬の供給状況を確認しながら在庫確保に努めてまいりますが、インフルエンザ治療薬を処方される際には、適正な患者選択および薬剤の適正使用にご協力賜りますようお願いいたします。

なお、インフルエンザ治療薬の院内在庫や供給状況につきましては、薬剤部・外来調剤室(内線：7088)までお問い合わせください。

<参考>

下記の各製薬メーカーWEB サイトでインフルエンザの最新情報が入手できますので、併せて参照して下さい。

グラクソ・スミスクライン(株)	RELENZA.jpーインフルエンザ・オンラインー http://relenza.jp/
中外製薬(株)	インフルエンザ情報サービス http://influenza.elan.ne.jp/



＊リン酸オセルタミビル Oseltamivir Phosphate

【商】タミフル Tamiflu 中外
内用：カプセル剤

1 カプセル中 75mg [316.4 円/個]

内用：ドライシロップ剤

1g 中 30mg [242.2 円/g]

【効】A 型又は B 型インフルエンザウイルス感染症及びその予防(予防は④のみ)

【用】④ 1) 治療：成人及び体重 37.5kg 以上の小児には 1 回 75mg を 1 日 2 回、5 日間投与する。

2) 予防：成人及び 13 歳以上の小児には 1 回 75mg を 1 日 1 回、7～10 日間投与する。

④ 成人には 1 回 75mg を 1 日 2 回、5 日間、用時懸濁して投与する。幼小児には 1 回 2mg/kg を 1 日 2 回、5 日間、用時懸濁して投与する。1 回最高用量は 75mg とする。

【警】④・④ ◆本剤の使用にあたっては、本剤の必要性を慎重に検討すること。◆10 歳以上の未成年の患者においては、因果関係は不明であるものの、本剤の服用後に異常行動を発現し、転落等の事故に至った例が報告されている。このため、この年代の患者には、合併症、既往歴等からハイリスク患者と判断される場合を除いては、原則として本剤の使用を差し控えること。また、小児・未成年者については、万が一の事故を防止するための予防的な対応として、本剤による治療が開始された後は、(1)異常行動の発現のおそれがあること、(2)自宅において療養を行う場合、少なくとも 2 日間、保護者等は小児・未成年者が一人にならないよう配慮することについて患者・家族に対し説明を行うこと。なお、インフルエンザ脳症等によっても、同様の症状が現れるとの報告があるので、上記と同様の説明を行うこと。④ ◆インフルエンザウイルス感染症の予防の基本はワクチン療法であり、本剤の予防使用はワクチン療法に置き換わるものではない。④ ◆本剤の予防効能での使用は推奨されていない。

【禁】本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【副】④・④ ショック、アナフィラキシー様症状、肺炎、肝炎、肝機能障害、黄疸、Stevens-Johnson 症候群、Lyell 症候群、急性腎不全、白血球減少、血小板減少、精神・神経症状、出血性大腸炎 ④ 蕁麻疹、紅斑、掻痒感、皮下出血

④ 腹痛、下痢、嘔気、嘔吐、口唇炎・口内炎、血便、メレナ、吐血、消化性潰瘍 ④ 嗜眠 ④ 上室性頻脈、心室性期外収縮、心電図異常、動悸 ④ AST・ALT 上昇 ④ 視野障害、霧視、複視、眼痛 ④ 発熱、低体温、浮腫 ④ 皮膚発疹 ④ 腹部膨満、便異常、口内不快感、食欲不振 ④ 頭痛、傾眠、不眠症、めまい、興奮、振戦、しびれ ④ γ -GTP・ALP 上昇 ④ 蛋白尿陽性、血尿 ④ 好酸球増加 ④ 気管支炎、咳嗽 ④ ブドウ糖増加、背部痛、胸痛、疲労 ④ ④ 軟便 ④ 結膜炎 ④ 鼻出血、耳灼熱感、耳痛

【妊】未確立、有益のみ 【授】授乳回避

【低・新・乳】1 歳未満：未確立

【貯】④ 開栓後 4 週間以降 10℃以下

＊ザナミビル水和物 Zanamivir Hydrate

【商】リレンザ Relenza GSK

外用：吸入剤(ドライパウダー) 1 枚 4 ブリスター
(1 ブリスター中 5mg) [170.8 円/ブリスター]

【効】A 型又は B 型インフルエンザウイルス感染症の治療及びその予防

【用】1) 治療：成人及び小児には、1 回 10mg を 1 日 2 回、5 日間、専用の吸入器を用いて吸入する。2) 予防：成人及び小児には、1 回 10mg を 1 日 1 回、10 日間、専用の吸入器を用いて吸入する。

【警】◆本剤を治療に用いる場合は、本剤の必要性を慎重に検討すること。◆インフルエンザウイルス感染症の予防の基本はワクチン療法であり、本剤の予防使用はワクチン療法に置き換わるものではない。

【禁】本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者

【副】アナフィラキシー様症状、気管支攣縮、呼吸困難 ④ 発疹、顔面浮腫、蕁麻疹 ④ 頭痛、手指のしびれ感、不眠症、失神、うつ状態、激越 ④ 下痢、悪心・嘔吐、咽頭乾燥、口渇、口内炎、舌あれ、食欲不振、胃部不快感 ④ 咳、咽頭刺激感、鼻道刺激感、喘鳴、鼻出血、鼻漏、痰、喘息、気道出血 ④ 嗅覚障害、耳鳴、視力障害、味覚障害 ④ 動悸 ④ 発汗、発熱、頸部痛、背部痛

【妊】未確立、有益のみ

【授】未確立、授乳回避

【低・新・乳・幼】4 歳以下：未確立